

懸案の第四校新築

明年豫算に計上

工費は七、八萬圓見當

町會の意見やゝ一致

平町の懸案たる第四小學校新築問題は逼迫せる町財政の現状に鑑み一兩年延期し工費一萬圓以内で第三校に三四學級の増築工事を施すべきであるとの意見と一方斯かる姑息策はいわゆる一文惜みの百知らずで寧ろ此の際既定方針たる第四校を新築することが得策であるとの兩論が町會議員内部に

米價復々奔騰

きのふ平倉庫の共販

四等米俵九圓半

昨報平農業倉庫にて開催中であつた平町外九ヶ村俵米品評會に出品中の俵米は昨日午後一同より同所にて入札に附した結果總數三百九俵は四等建値九圓四十三錢と云ふ高値を見湯本町の千葉政氏に落札されたが當日平町に於ける同米相場は一俵八圓八十六錢なので市價より五十七錢を突破したが原因は品評會出品物の入札から競札されたものである

唱えられ八年度豫算編成期に當面し町當局では立案の左右に惑つてゐる折柄大森萩原兩氏が熱心な新築案を強調し積極的に町議間の賛成を取纏め中之れが成功すれば八年度豫算に七八萬圓を計上年度内に起工の運びに至るもの、様に觀測されるに至つた

匡救工事監査

農林技師一行

石城郡江名、豊間、四倉等に於ける匡救土木工事監査の爲め去る七日來郡した農

校長叙位

きのうの發表

既報過般高等官を以て待遇せられた本郡下小學校長中左の兩氏は舊臘十五日附で左の如く叙位された旨昨日發表された

從七位 内郷第三 仲村辰四郎
正八位 平第二 津田達造

郡農會主催の

中 堅農民講習

來月中に開催

石城郡農會では縣農會と聯合して來月一日より郡下中堅農民講習會を開催すべく準備中であるが來月一日より三日迄は平町團体事務所四日より八日迄は内郷村に九日より廿八日迄は平町にて開催する豫定であるが聴講生約四百餘名に達する筈であると

磐中寒稽古

既報磐城小學校柔剣道部の寒稽古は明朝より開始されるが監督は柔道部菅野、齊藤、劍道部梅森、山崎各教諭に決定された

斷然輸入を廢し

小野氏説有力

小名濱後任町長

既報石城郡小名濱町長鈴木榮氏は來る十九日を以て任期満了となるので是が後任に就いては同町長の重任、伏見、水野兩氏の輸入説等を噂されて居たが同町の將來には商港問題上水道設置等を控へてゐる爲め一般に輸入町長を廢する説が有力となつた結果同町々議連は是の程吉田屋旅館に町長起用案を協議した結果元縣議小野晋平氏を起用する事に大體の意見が一致したので結局は同氏に決定するらしい

平町各校の

教務主任會

各小學校長及び教務主任會は本日午後一時より第一小學校に於て開き學期初めに於ける種々打合せを行ふと

平職業紹介所報告

△店員 二十三人 尋卒
△給料面談(平町某)
△女中 四十才以下 月五

玉木訓導轉任

平第二小學校訓導玉木英明氏は今般家事上の都合に依り故郷である梁川小學校に轉任され來る十四日平發午前八時五十分にて赴任すると

貸切の●●●

御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

共濟病院案内

院長 醫學博士 石山謙
自宅(電話)二四番

内科 醫學博士 石山謙
小兒科 醫學博士 佐久間
外科 醫學博士 佐久間
喉科 醫學士 桂重
皮膚科 醫學士 有馬重
産婦人科 醫學士 五十嵐雄
X光線科 醫學博士 佐久間
衛生試驗所 醫學博士 石山謙

藥局 藥劑士 高石山謙
診療時刻 午前八時より午後五時迄
但急患は此の限りに非ず

平町 磐城共濟會
電話 六四一

外科
X光線科
性病科
外科科
入院隨意

平町田町
安齊外科醫院
電話 四七五番

あす、平驛頭に

輝やく勇士

郡出身の五十餘名

盛んな歓迎祝宴

既報去る九日縣民の大歡迎に凱旋した若松歩兵廿九聯隊の中本部出身の五十餘名は明十二日除隊となり同日歸郷の途につき午後三時五十三分平驛着別車にて歸還する事となつたので町當局及び町村長支會、在郷軍人聯合會其他の各團體は是等五十勇士を驛頭に迎へ直に驛樓上に於いて簡單な祝宴を催し青沼平町長は町村長支會を代表して左記の如き祝辭を述べると同日の平驛頭は再び凱旋勇士の歡迎で空前の盛會を豫想されて居る。

武勳を中外に輝し本日郷土に凱旋せられたる諸士の英姿を迎へ歡喜勇躍措く所を知らず仍て茲に郡民を代表し滿腔の誠意を捧げて駐劄中に於ける勞苦を感謝し併せて偉大なる勳功を賞讃して止ざる所なり然と雖も帝國の現状は更に國民の緊張要

すべき重大難局に直面しつゝあり希くは軍に従つて強兵なりし諸士は更に家郷に在りては社會の儀表となり良民なる實を擧げ以て國家の柱石たらん事を聊か燕辭を述へて祝意を表す
支會長 青沼鋒太郎

求人就職ともに

前年より激增

平紹介所昨年の業績

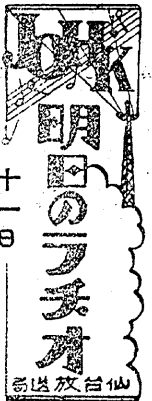
抑々滿洲に於ける帝國の權益擁護は自衛上又將來東洋平和維持の爲め最大需要事にして該地に軍隊を駐劄する所以又茲に存す曩に我第一師團が國家の重責を負ふて此大任に當る偶々滿洲事變突發するや諸士は勇躍軍に従て嚴寒酷暑を冒して勇戰奮闘疾風雷の勢を以て兵匪を殲滅し以て我權益擁護の大任を果し實に滿洲國をして王道政治の復活に努力せしめ極東樂土建設の基礎を鞏固にし赫々の

平職業紹介所で昨七年度に取扱つた紹介成績を見ると求人男が八百七十七名、女二百六十七名、計千四百四十四名、求職者の男千二百七十二名、女二百四十九名、計千五百廿一名で其の内就職した者は男が六百八十二名、女百卅八名、計八百二十名で前年同期に比較すると求人に於いて十八名、求職が二百四十一名、就職が三十九名といづれも増加を見て居るのは好況來の影響を受け事業界の好轉に依るものであるが紹介方面は矢張り土木を第一に商業家内使用人工業の順であり本年は尙幾分の好轉を見られて居る

植田も上騰

五等九圓ちか

石城郡植田町字後田區民有志は此の程農業倉庫を新築し去る七日第一回の共同販賣を行つた處總數百三十四俵を五等建値八圓八十五錢で山田村の秋山榮氏に落札



明日のラジオ
朝氣天
今晚も明日も北西の風で天気良し

今晚の部

後六〇〇 子供の時間
童謡獨唱 本居若葉 本居浩一
後六二〇 國立公園特別講座「日光」林學博士田村剛
後七三〇 婦人の夕 (宗教的態度を望む) 小泉

し是の純益百餘圓を擧げたので區長榊田子之吉氏外有志は同倉庫を將來益々發展せしめるべく運動中である

今度は舊曆歲末の非常特別警戒

平署昨夜から總動員

平警察署では昨夜より舊年未の市内取締の爲め全署員を擧げて非常警戒を行ひ今後十日間位の豫定で毎夜續行の豫定であるが警戒第一日の昨夜は殆んど目星しい獲物がなく平隱に終つたが舊年末も愈々迫ると平町附近町村よりの人出は例の農家救済策による好況を受け例年より多く市内各商店でも是にかかりの期待を掛けて準備して居る處から同署では今後の警戒を一層嚴重にする筈である

偽大學生

十三日に公判

モグリ桂庵

略式罰金廿圓

石城郡湯本町大字湯本字天王崎二十五番地無職飯田虎

北海道室蘭市榮町八十九番地生れ目下住所不定前科四犯谷山義道(三)が昨年十一月下旬東京市豊島區巢鴨町五丁目千百一十一番地小幡シゲ方より現金五十圓及び勸業債券(十圓)四枚を窃取し

劇部生徒
後九四〇 全國ニュース
氣豫通報 番組預告
明日の部
前九二〇 料理献立「白魚の御飯」中村光三
前一〇三〇 家庭講座「グイタミン標準の國際統一の話」榮養研究所長醫學博士佐伯短
後一〇五 新日本音楽千代の壽 外都山流浪花祭壇北原富山外四名井上黄山外十五名
後二〇〇 婦人講座「社

同所下宿人平町鎌田町生れ荒井マツ(三)と共に逃走し大野村玉山鑛泉石屋に東北商大生と偽稱して投宿中捕れた窃盜事件の公判は来る十三日平區裁判所に於て中島判事係り上田檢事及び渡邊書記立會の下に開廷する

頓死

高坂の老坑夫

石城郡内郷村大字高坂字御殿一居住坑夫星倉三郎(五)は昨十日午前零時半頃坑内作業を終へて同字地内坑夫共同風呂に入浴中老衰の爲め心臓麻痺を起し浴内に溺死して居るのを發見された

直營陳情

あす委員出縣

問題の鮫川疏水復活工事は愈々年度内に着手となるが縣としては縣直營で行ふ腹であるが疏水工事の如き複雑な關係を有する工事は縣直營でやるのは仲々困難なので組合側では組合直營案を立て縣に懇談する處あつたが縣側では縣營を主張するので組合では廿二日工事常設委員前縣議古川傳一氏外七名の委員を擧げ出縣して組合直營の陳情をなすこととなつた

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雑誌

自由に讀める

川崎回文庫

電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

慕末御寄

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第二百四十席 平手造酒

勢力の隠家判る

こちらには夏目の金比羅山にゐる勢力の子分榮助

榮「親分は何處へ行つたな

麓の様子を見て來ると云つて夕べ出たまゝ歸つて來ねえ、御用とあてられては大變だ、それとも俺を一人この山に置いたまゝで長い草鞋を穿いたかな、そんな不人情な親分ではなからう」と云ひながら空を見上げ

榮「今夜も大分更けたな、三ツ日の様子ではモウ九ツ過ぎだらう、ア、寒くなつて來た親分は何うしたらうな氣になるな」

富「榮助何を云つてゐるんだ」

榮「アツ親分、何處から歸つて來ました」

富「裏山から上つて來た」

榮「そいつはよかつた、お前さんが昨日出たまゝ、今に歸つて來ねえから八州役人の爲めに押へられたかそれともわたくしをこの山に置いたまゝ、他國へ走つたかと心配してゐましたよ」

富「馬鹿な事を云ふな、こんなまじなやつでまで俺と一緒に苦勞をするお主を捨て、何うして他國へ行く事

が出来る、實はな榮助、夕べ飯岡へ行つて來た」
榮「エツ飯岡へ、何んだつて飯岡へ行きなすつたあぶねえや」
富「あぶねえのは承知の上だ、助五郎が居たならば首



來ねえ、そこの足立屋と云ふ料理屋に上つて久し振で甘い酒を飲んで來た」
榮「それは親分御馳走様でございます、お前さんは酒を飲んで甘い思ひをしたであらうが、わたくしは此山に一人でゐて心配しましたよ」
富「いやみを云ふな、それ土産を持つて來て遣つた、酒もあるぞ」
榮「有難い、久しぶりて人間らしいものが食へます」
富「寒くなつて來た火をこしらへろ」

判らねえと見えますね」
富「さうよ、まさかこんなところに巢を作つてゐるよとは思ふまい、しかし何時か一度は感付かれるは知れた事、役人の氣の付かぬうちに又飯岡へ押寄せて助を首にしてえものだ」
榮「さうでございますね、あゝ良い酒だこんな山の中に隠れてゐやうとは思はなかつた、ねえ親分姐さんは何うしたかな」
富「あれは小見川の吉と夫婦はなつて美しく暮してゐるであらう」
榮「さうでございますかね、そこへ行くとわたくしには女房もなければ親もございませぬ、親分を眞實の親だと思つて十三の時から廿三になる今日迄世話になつて居ります」

富「コレ榮助、汝は泣いてゐるな泣き上戸か、モウよせ、そんな理に付んだ話は斯うなるも前世の宿縁、恩を受けた親分繁蔵どんを佛にしてやりてえ爲め、なア榮助こんなやくざ者でも義理を忘れては人ではねえ」
榮「さうでございます、しかし親分義理なんて云ふものは腹を空らしたり寒い思ひをするものでございませぬ」
富「何を云やあがる、待て、誰か來たぞイヤ足音が聞えた、火を消せ」
榮助は金比羅宮の手洗の水でこの焚火を消し向ふの方に目をつけると闇を縫ふて駆けて來た一人

にしてくれようと思つて忍んで行つたがあいつはどこまで悪運か強いが留守だつたよ」
榮「へー助の若い者はお前さんを見たらば吃驚したでございます」
富「呆れてゐた、而し助の歸るまで待つてゐる事も出

社の前に枯枝を集めて榮助は火を移すと吹き來る風にドツと燃上る、石に腰打ちかけた勢力
富「ア、よい心持だ、さア榮助酒を飲め」
榮「大分御馳走がございませぬ、ねえ親分八州の奴等には私共、」に居る事が

○「親分えれえことになつたぞ」
と云ふは七助
富「なんだ、何うした七助」
七「それえ事になりましたお前さんがこゝにゐる事が判つたぞ」
富「なんだ俺がこゝにゐる事が知れたと、何うして知れた」
七「俺だ、お役人様にしやべつてしまつた」
榮「この馬鹿野郎」
と飛びかゝつて引倒しボオ、と頭を打つたがその時勢力が
富「コレ榮助何を、これには定めし仔細もあらう七助その事を云へ、何うして俺がこゝにゐる事を役人に知らした、エー云へ」とせき立てた

外科専門
花柳病専門
木村外科醫院
入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

質流れ 大廉賣
三丁目通り
旭屋衣裳店
電話四二五番
暫く御預りを控へて御迷惑をお掛けして居りましたが整理も一段落告げましたので従前通り夜間九時までお預りを再開致しましたから御利用御引立を御願申します。
一六銀行係

年始 年末
御贈答品
産名城磐
鯉節
魚問屋
最優最 日大最 命生本 平代平 店理代
榮盛 番三一二電 目丁四平

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番
高級貸切
不一タクシー
電・32